

平成27年7月30日

研修報告書

松戸市議会議員
大塚 健児

研修：マニフェストサミット2015「政策で勝負する議会へ」

主催：ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟

日時：平成27年7月30日（木） 9時半～12時

場所：早稲田大学日本橋キャンパス

1. 趣旨説明 北川正恭氏「地方創生における、地方議会の役割とは」
2. 問題提起 黒岩匡昭「地方創生とパブリックガバナンス改革の現場からみる課題」
3. パネルディスカッション
4. 閉会

【研修報告】

1. 趣旨説明 北川正恭氏「地方創生における、地方議会の役割とは」



総合計画は補助金をとりにやすいために作った。

執行権者に対して、議会は決定権者。

地方を支えていくのは首長もそうだが、議会も同じ。

追認執行部。

たぶん議会がなくなるほどの大改革がはじまっている。

選挙も人口知能によって変わってくる。ビックデータもそろってくる。

エビデンス証拠に基づいて選挙を行っていく。

政策で勝負する実行団体。自ら考えること。

相手が悪いのではない。理解させられない自分が悪い。

積極的に出ていかないと。対立競争くらいの覚悟で。新しい時代を地方議会から。

2. 問題提起 黒岩匡昭「地方創生とパブリックガバナンス改革の現場からみる課題」



地方創生とは次世代に対して責任を持つということ。

プレミアム商品券は結局ばらまき制度。なんら変わっていない。

大きな甘えの構造である。

これを見る限りでは、自立するんだという動きができてきていない。

今回も地方創生300億円は8月末が締切です。

官僚側は言います。これはテストです。できなかったら立憲能力はない。取りあげてしまうということ。

いろいろ政府の政策を見るが、守りの政策が手薄になっているのでは。制度疲労しているように見える。現状では場当たりの対応しているしか見えない。

例) 関空・伊丹・神戸を一体的に経営

関空に毎年100億円の赤字を出すなら、一体的に経営をした方がよい。

経営の構造改革が必要。民間との対話。広域連携をしていかなければならない。

3. パネルディスカッション

熊谷俊人 (千葉市長)

福田紀彦 (川崎市長)

北川正恭 (早稲田大学名誉教授)

黒岩匡昭 (新日本有限責任監査法人)

▽コーディネーター 草間剛 (横浜市議会議員)



たくさんのディスカッションがありましたので、一部抜粋となります。

熊谷市長) 民間にシフトをしていった。例えば市内にある林間学校を指定管理料0円で合宿ビジネスに切り替える。外郭団体→民間→ユースホテルという流れにし、ビジネス的な流れに切り替えた。限られた予算・人員でどこに優先順位をつけるかが大事。施設の維持費は見える化。別の用途のできるのであればスライドさせていく。諦めずにいろいろとやる。

福田市長) 川崎市もプール指導をするのに多額の公費を投入していたが、民間を入れることで、子どもの参加者が倍になった。

黒岩氏) ユースホテルはニーズ過剰なのに供給が追いついていない。いかにビジネス感覚を入れるか。お金周りの自立。行革しながら成長戦略。日本のインフラコストは高すぎる。飛行機の運賃がそう。JALがまともな経営をしだした。おかしいと思うところからスタートするべき。

熊谷市長) 今でも指定管理者制度について質問される。そもそも外郭団体って何と言い続ける。民間でもできないものが外郭団体。民間でできるものは民間が基本。外郭団体を一つずつなくしている。職員があぶれてしまう場合、市の本庁で転用する。つまり、時間軸で決めていく。どんどん倒すようにしている。以前に比べて相当減りました。

北川氏) 松阪市では議会のリコールがありました。改革の敵は議会ではないか？

熊谷市長) 先日子ども議会をしました。すると、子どもたちに議員は『私たちはご意見

番』と説明をする。これって意思決定組織、監視機能という認識がない。

北川氏) 議会は追認執行部である。行政が産業化した。既得権益を守るのではない。市民は見ている。陳情屋でいいのか? 本来の立ち位置を取り戻すべき。いきつくところまでいかなないと変わらない。横浜市議会は立案8本。執行部は馬鹿にしていたが、これはすごいと見直した。

熊谷市長) 議会には2つあります。一つ目は予算の優先順位を決めてほしい。政策の優先順位を決めるのは議員。市長査定もそれを重視する。しかし、会派内で意見が対立するから、優先順位がつかれない。

二つ目は、常任委員会。所管事務調査で議員間討議をして政策提言をする。

国会よりも遅れているのが地方議会。答えない執行部。そもそも一般質問で拘束するのがおかしい。関係ない質問であればよっぽど現場を回っていた方がいい。日本の地方議会ぐらいが一般質問をやっている。株主総会と一緒にどうしても原稿のすり合わせは必要になってきて、細かい議論は常任委員会で直接課長とガチンコ勝負をやるべき。

北川氏) そもそも、公聴会やパブコメを執行部がやっているのがおかしい。首長が議会を飛び越えて市民と話をしている。議会は何のためにあるのかわからない。オープンデータが市のホームページにあるのはおかしい。議会がやるべきだ。当局のパブコメは信用できない。

福田市長) 地方創生のお話をさせてください。川崎市は宮崎県と協定をむすんだ。首都圏の企業と連携し、経済を活性化させる。

熊谷市長) 千葉市の地方創生は少し考え方を改めて、千葉市民が都内に通う通勤者21%。一方川崎市は40%。実は意外と千葉市内に通勤している。しかも、転居先を見ると千葉県内で転出転入を繰り返している。行政も政治もカンでやっている傾向がある。実は地方創生で東京圏と言われているが、千葉から先が地方圏に入ってくる。周辺に企業を減らすだけでもいい。何とんでもデータ。例えばデパートは会員データを持っている。ピンポイントでデータがある。最近ではリーサスというオープンデータが見れる。しっかりとデータをもとに考えること。

福田市長) 川崎市には富士通の本社がある。子育てアプリからデータを取り出し、市民のニーズにあった情報提供をしている。

以上で時間となる。

こののち、挙手による質問コーナーとなったため、私は質問をした。



Q 総合計画は数年前につくられたもので、人口減少を考慮していないものになっている。その計画変更をするべきではないか。また、総合戦略に議員側も立案から加われないと説明を受け、これについてどう考えるか？

熊谷市長) 人口フレームはとても大切。千葉市は総合計画について議会の議決をしている。しっかりと特別委員会を設けて議論をしていくべき。

特に下水道や水道等はこの人口フレームによって計画を立てている。人口フレームによって計画も大きく変わることから、早急に人口計画は見直すべきである。

【まとめ】

大変有意義な二日間の研修会でした。北川先生からは議会改革を。熊谷市長からは、データを基にしっかりと分析をすること。また、予算の優先順位や常任委員会の在り方他様々なことを勉強しました。福田市長も民間感覚を行政に取り入れること。黒岩さんは、経営の構造改革をやるべきという話。

今日学ばせていただいたことはとても大切です。私一人ではなかなかできませんが、しっかりと自分の意見を持ち、データを基に真剣な議論をしていきたいと思う。